

概要版

元離宮二条城二之丸御殿保存修理計画(案)



令和8年1月



1 はじめに —保存修理工事の必要性—

京都市では、平成23(2011)年度から「世界遺産・二条城本格修理事業」として、城内の文化財建造物の保存修理に計画的に取り組んでいます。これまでに重要文化財の唐門、築地、東大手門、本丸御殿の修理が完了し、この度、二之丸御殿の大規模な保存修理工事を実施します。

二之丸御殿は昭和の修理以来、約80年が経過し、建物の老朽化が進んでいます。引き続き文化財としての価値を守り、観覧者の皆様が安心・安全に観覧するためには、耐震補強を含む保存修理工事の実施が必要です。



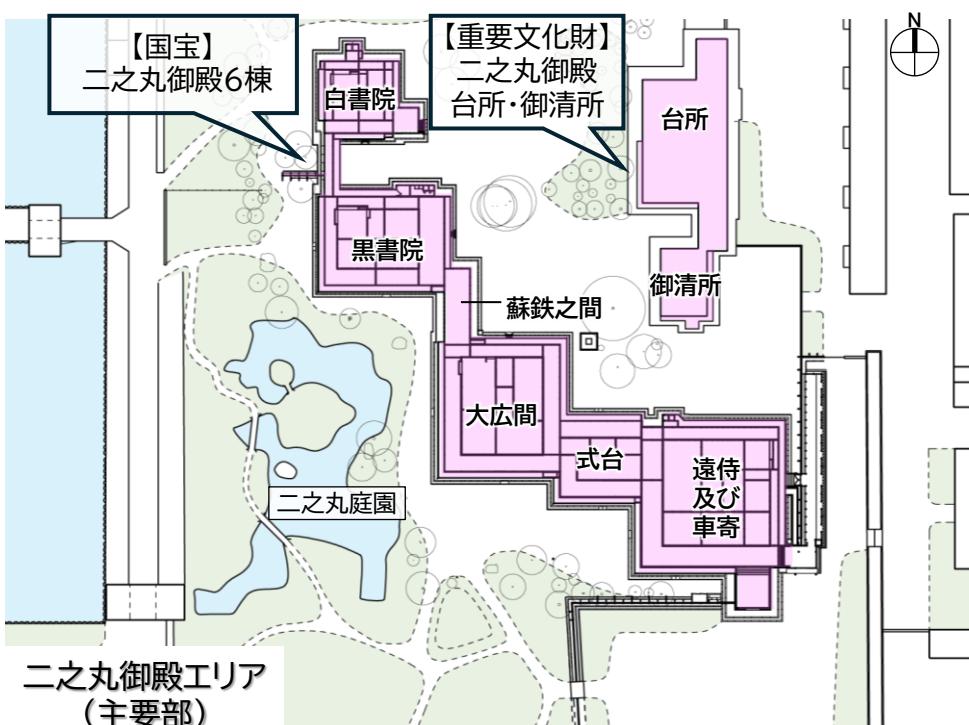
2 修理する建物の概要

【国宝】二之丸御殿6棟

- しろしょいん くろしょいん そとつのはま おひひろま しきだい とおざむらい くるまよせ
- 白書院、黒書院、蘇鉄之間、大広間、式台、遠侍及び車寄からなる二之丸御殿6棟は、慶長7(1602)年～8(1603)年に建てられ、その後、寛永3(1626)年の寛永行幸に備えて大改修が行われました。現存するこれらは、御殿建築の頂点である寛永期の姿を偲ぶことができる建造物群です。

【重要文化財】二之丸御殿台所・御清所

- だいどころ おきよどころ
- 二之丸御殿6棟が権力者による政治の表舞台ならば、二之丸御殿台所・御清所はそれを支えた裏方の建造物群です。
 - 台所は、寛永行幸に際し建てられたと考えられ、国内の文化財指定の台所の中では、屈指の規模を誇り、土間と板間が一体となった内部空間の広さでは随一です。
 - 御清所は、台所の南に続く建造物で、配膳所と考えられています。日本の城郭の中で台所と御清所がともに残っているのはここだけです。



③ 保存修理計画の策定

- 保存修理工事を適切に実施・運営するため、元離宮二条城二之丸御殿保存修理計画を策定いたしました。本計画は、保存修理、耐震補強、工事計画・情報発信、公開活用の4つで構成しています。
- 本計画では、文化財としての価値を最大限に維持し、さらには高めながら、安全性の確保と適切な修理を実施するための3つの方針を定め、今後の設計・工事において必要となる技術的要件や配慮事項を整理しています。

文化財としての価値

1. 将軍の権威を示す空間～江戸時代、書院造の完成形～

- 二条城は、徳川将軍家の京都における居館として建てられました。その後、寛永行幸で後水尾天皇を迎えるため行幸御殿を新築、本丸部分を拡張して御殿を新築し、二之丸の既存の御殿が大改造されました。これが現在の二之丸御殿です。
- 二之丸御殿は、書院造の完成形とされる建造物です。入口である車寄、訪問者が待機する遠侍、公式の対面所である大広間、内向きの対面に用いる黒書院、將軍の私的な生活の場である白書院という、機能が異なる複数の棟が雁行形に配置されています。
- 内部は、武家社会の厳格な身分秩序を明確に示す演出が施されています。主室には上段、下段の続き間を持ち、格式を示す書院造の設えである床、棚、付書院、帳台構を備え、金箔や金砂子をふんだんに用いた障壁画で壁や襖が彩られています。



主従関係を確認する対面儀式の空間

2. 天皇の離宮に相応しい空間～明治・大正時代、離宮としての整備～

- 二条城は、明治17(1884)年に「二条離宮」となります。離宮とは皇居以外の宮殿であり、皇族の行幸啓や即位の大礼に備えて、順次整備が行われました。この時、二之丸御殿の屋根の飾金具は、徳川家の家紋である葵紋から、天皇家の菊紋へと付け替えられ、廊下の障壁画は、近代の皇居である明治宮殿(明治21[1888]年築、昭和20[1945]年焼失)にならい、正倉院宝物等の意匠を参考に制作されました。明治宮殿の意匠を継承し、建築と共に現存する唯一の例として貴重なものです。



御殿のシンボル、徳川家の葵紋から天皇家を象徴する菊紋へ変更された

3つの方針

1. 文化財建造物の安全性を高め、次世代に継承する

- 文化財としての価値を維持・継承するため、建物全体の老朽化に対し、屋根の葺き替えを中心に部分修理を行うとともに、耐震補強工事を行います。

2. 文化財の保存と公開を両立する

- 保存修理工事は、工区を分けて段階的に行い、工事中の工区以外の建物は公開します。

3. 文化財の価値の理解をより一層深められる機会とする

- 修理現場の様子や、歴史的な発見など、修理の進捗について情報発信を行い、観覧者がより一層文化財の価値への理解と関心を深められる場となるよう工夫します。

4 保存修理

老朽化により傷んだ箇所を修理し、往時のかがやきを取り戻します

建物の各部位の老朽化に対し、文化財として適切に維持・継承するための保存修理を行います。

- 現在の破損状況から、屋根の葺き替え、軒廻りや木部の修理等により建物の防水性や安全性等を改善するとともに、障壁画の修理等も行います。
- 保存修理は、文化財を健全な状態に戻すとともに、建物の歴史や技法等についての新たな知見が得られる貴重な機会です。これらの情報を丁寧に調査・記録し、後世へ引き継ぎます。

① 屋根の葺き替え

全ての瓦を葺き替えます。雨漏りによる腐朽部、屋根面の歪みが著しい箇所、軒先の下がりやねじれを修理します。



② 軒廻りや木部の修理

建物を支える木部の虫害、劣化については、同材による取り替え等により健全な状態にします。



③ 障壁画の修理

亀裂や絵具の修理をします。破損がひどいものは当時の工法にならい新調します。



④ 建具・表具の修理

建具のゆがみ、動作不良を是正するとともに、障子紙の破れや板の割れ等を修理します。



⑤ 飾金具の修理

離宮時代の二条城の象徴である莊厳な屋根の妻飾りを復旧します。木部の黒い塗装に金具の金色が映える往時の姿へ戻します。



⑥ 床の補修

黒漆がはく離した床を摺漆で復旧します。



5 耐震補強

耐震補強の必要性 —耐震診断の結果について—

- 耐震診断において、京都盆地で想定される花折断層地震の影響を想定したところ、建物にねじれ等が生じるとともに、柱の一部で折れが発生し、建物が倒壊するおそれがあることが判明しました。
- 二之丸御殿の特徴である雁行形の建物配置も、その一因となっています。



耐震診断の実施

耐震診断では、建物の構造的弱点や破損状況に関する調査を行いました。



江戸時代に建てられた二之丸御殿には、良質な強いヒノキ材が使われています

柱の非破壊検査

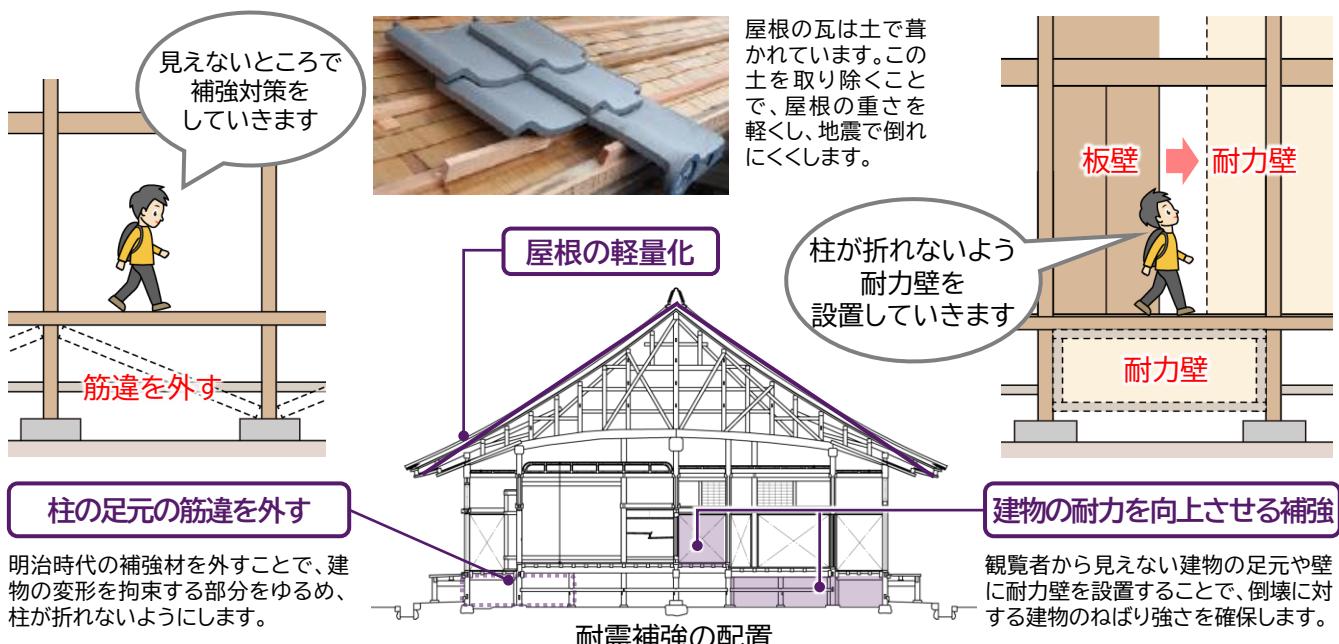
現在の建物の強度を確認するために、使用されている木材の状態に応じた適切な耐震性能の評価を行いました。

文化財の価値を損なわずに、耐震性能を確保する補強を行います

- 二之丸御殿の耐震補強の方針は、以下の3点です。
 1. 多くの観覧客が訪れる建物であるため、大地震時に倒壊しない耐震性能を確保すること
 2. 6棟が連なる外部の建物景観や、障壁画等で構成される室内意匠を損なわないこと
 3. 建物の部材に手を加える範囲を最小限とすること

どのような補強対策を行う必要があるか

- 補強は、強く固い補強材で建物を堅牢に固めるのではなく、木造建築が持つ柔軟性を生かしつつ、建物に耐力を持たせることで、大きな揺れによる倒壊を防ぐ対策を行います。
- 屋根の軽量化に加え、床下の筋違を外したり、柱の変形を阻害しないよう耐力壁を設置します。室内では、障壁画の裏側の見えない部分で、耐力壁へ置き換える補強をします。

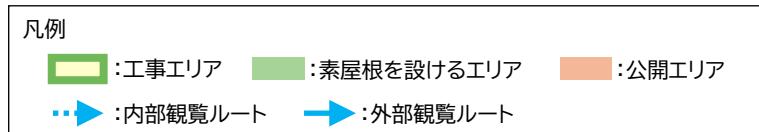
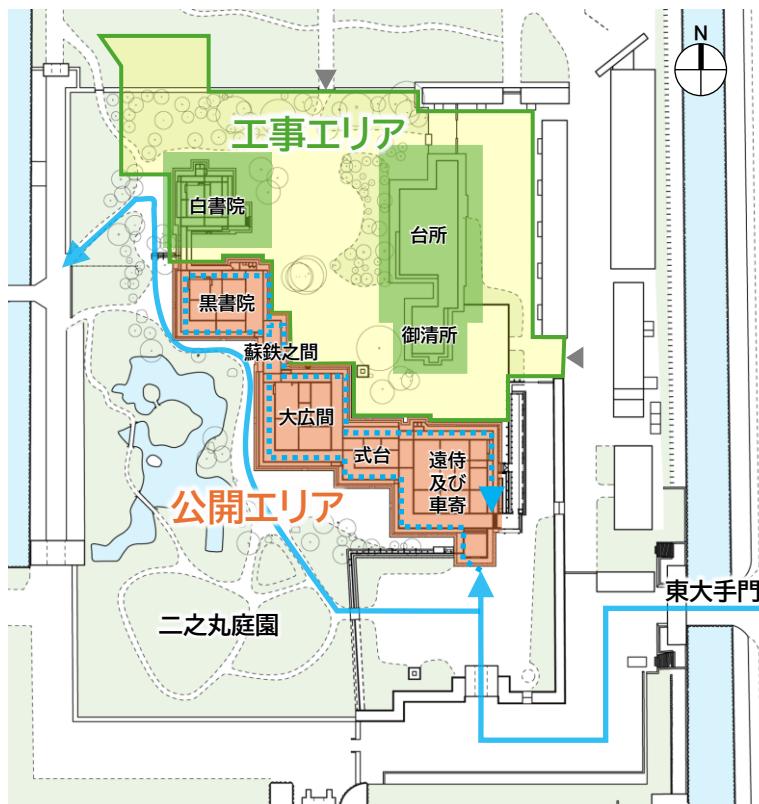


6 工事計画と情報発信

観覧に影響の少ない建物から、4つのステップで工事を進めます

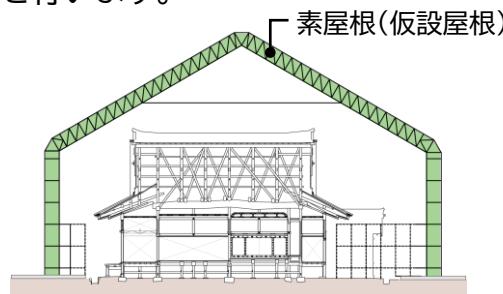
- 工事は、4つの範囲(A~D工区)に分け、各ステップで順次進めていきます。
- 史跡、特別名勝、文化財建造物といった文化財への影響と、観覧者の安全に十分配慮します。
- 樹木の伐採は必要最低限にとどめ、工事終了後は可能な限り原状復旧します。

ステップ1 (A工区) 白書院・台所・御清所の保存修理工事



素屋根

- 修理が行われる建物は、素屋根という大きな仮設の屋根で覆います。その中で雨風を防ぎながら安全に工事を行います。



例:白書院にかかる素屋根

工事中の観覧

- 白書院・台所・御清所は工事中のため見学できません。
- 遠侍及び車寄から黒書院の区間と特別名勝である二之丸庭園は、内部・外部の観覧ルート(青矢印)を設けるため、これまで通り観覧できます。

工事中ならではの情報発信を行います

- 工事の進捗によって順次、公開できる棟が変わるために、工区ごとに新たな観覧ルートや必要な施設と機能を整備します。工事期間中は観覧者の安全確保だけでなく、工事中ならではの情報発信といった見所を盛り込む予定です。

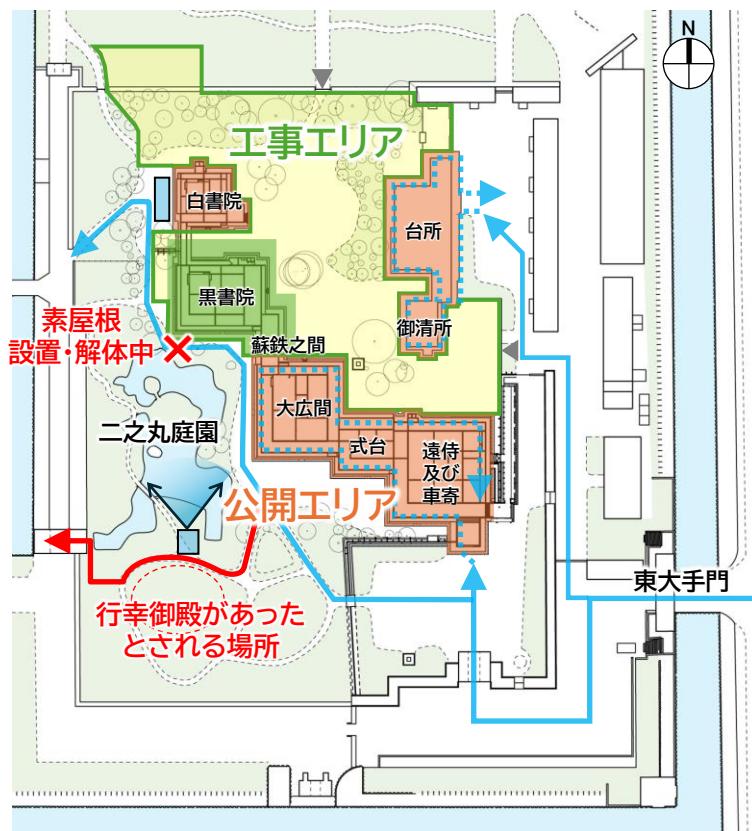


例:工事の仮囲いを利用したパネル展示



例:職人の修理の様子を見学

ステップ2（B工区）→ 黒書院・蘇鉄之間の保存修理工事



凡例

- | | | |
|---|--|---|
| ■ :工事エリア | ■ :素屋根を設けるエリア | ■ :公開エリア |
| ➡ :内部観覧ルート | ➡ :外部観覧ルート | ■ :仮設デッキ |
| ➡ :新たな仮設ルート【素屋根設置・解体中】 | | |

工事中の観覧

- 素屋根の設置及び解体中は、通常の特別名勝・二之丸庭園側の観覧ルートが通れなくなります。
- そのため、工事に伴い通常の観覧ルートに制限が生じる場面では、通常開放していない園路に仮設ルート(赤矢印)を設け、新たな動線を確保します。
- 新たな仮設ルートでは、行幸御殿があつたとされる場所から庭園を眺めることができる工夫をします。工事中しか見ることのできない魅力的な眺めを提供します。

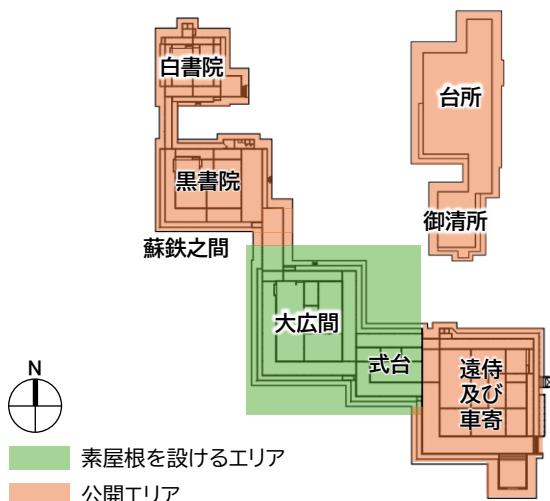


行幸御殿があつたとされる場所から、普段と違う視点で、特別名勝・二之丸庭園を観覧できます。

ステップ3（C工区）

大広間・式台の保存修理工事

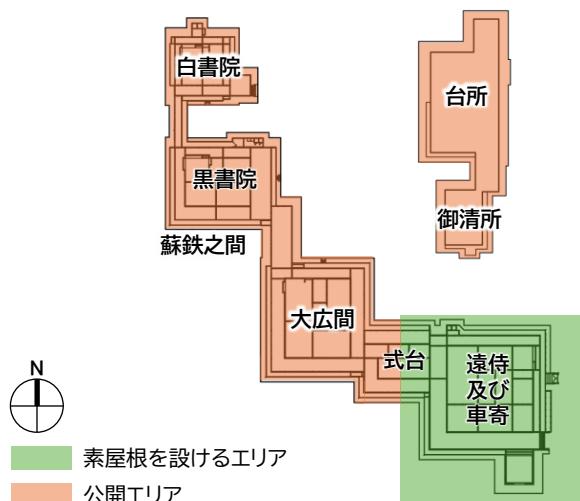
- 工事中は遠侍と黒書院・白書院が分断されますが、仮設の渡り廊下や迂回通路を設けて、一筆書きの観覧ルートを確保します。



ステップ4（D工区）

遠侍及び車寄の保存修理工事

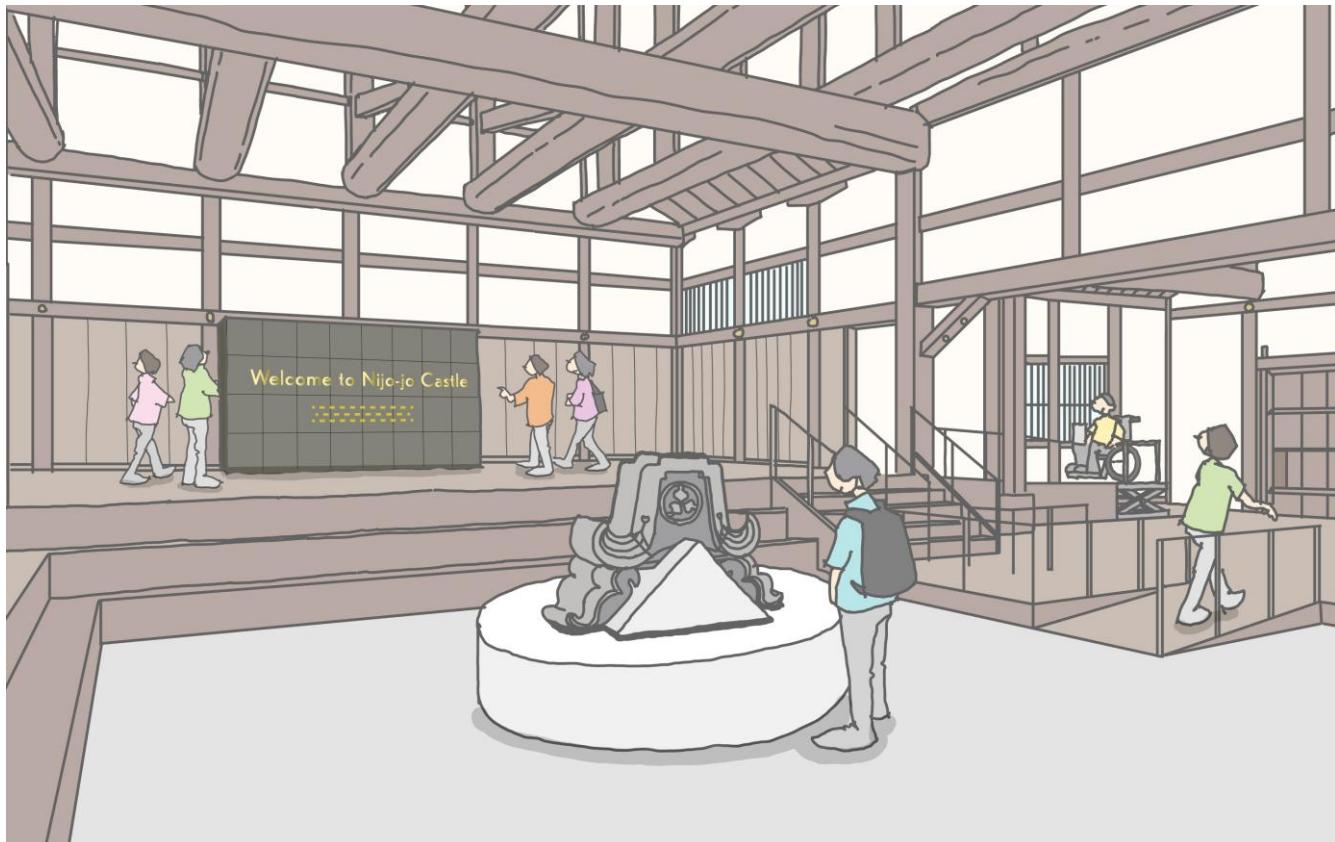
- 工事中は、通常の出入口が使用できなくなるため、大広間の南面に仮設の出入口を設け、観覧ルートを確保します。



7 公開活用

工事完了後の観覧について 一二之丸御殿台所・御清所を一般公開します

- A工区の工事完了後は、これまで一般公開をしていなかった台所・御清所を公開し、文化財の魅力を最大限に引き出しながら、誰もが楽しめる公開運営を目指します。
- 二之丸御殿の本質的価値や固有の歴史、さらには保存修理の過程を分かりやすく伝える展示や解説を充実させるとともに、多言語対応やスロープの設置などバリアフリーにも配慮し、安全で快適な観覧環境を整備します。



台所の公開イメージ

往時の壮大な木造空間を体感できます。

車いすの方が1mを超える段差も安心して昇降できる工夫をします。



保存修理の紹介

保存修理のために取り外した
飾金具や屋根瓦、伝統的な継
手模型等を展示する予定です。

歴史の紹介

二条城に係る歴史資料等を
展示する予定です。

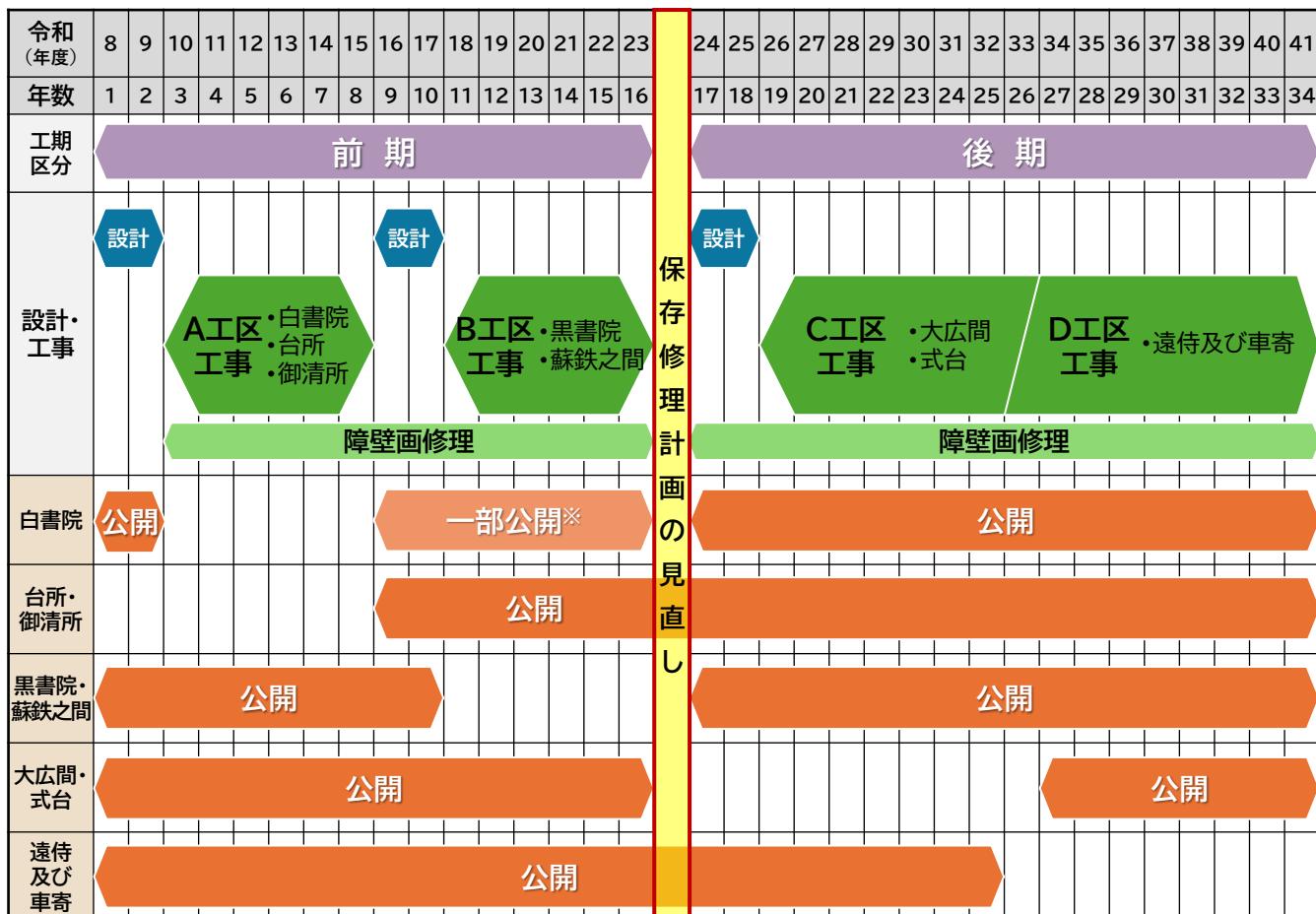
障壁画(模写)の紹介

取り外した障壁画(模写)を展
示する予定です。

8 事業概要

事業スケジュール

- 1工区あたり、6~9年の工事期間を見込んでおり、全4工区の総事業期間は34年となります。
- 工事完了後の建物は順次公開し、公開範囲を可能な限り広く確保します。
- C、D工区の工事前には、A、B工区の実績等を踏まえて、計画の見直しを行います。



※ 一部公開は、屋外から建物内部を観覧するかたちです

事業費の財源は基金や国(文化庁)の補助金等

- 事業費(概算)は200億円です。その内、修理工事費は170億円です。
- 事業費の財源は、毎年、収入の一部を積み立てている基金に加え、国の補助金(事業費の約1/2)等を充てます。
- これまでから実施している「世界遺産・二条城一口城主募金」についても、アピール強化に取り組み、その寄付金については基金に積み立てます。

事業費(概算)

	金額	内訳
工事費	170億円	A工区(6年) 40億円 (うち、約1/2は国の補助金を充当) B工区(6年) 30億円 (うち、約1/2は国の補助金を充当) C・D工区(16年) 100億円 (補助金については、保存修理計画の見直しの時期に合わせて国と協議)
その他	30億円	公開活用費、設計費、防災施設整備費等
合計	200億円	



南東からみた二条城全景（写真手前：二之丸御殿、写真奥：本丸御殿）



発行：令和8年1月／京都市文化市民局 元離宮二条城事務所
住所：京都市中京区二条通堀川西入二条城町541
電話：075-841-0096 FAX：075-802-6181
URL：<https://nijo-jocastle.city.kyoto.lg.jp/>

京都市印刷物 第0000000号